



「後悔する勇氣」

令和5年10月6日発行の伊丹市立少年愛護センター「センター通信」NO.415 に掲載されていた県立伊丹高等学校の生徒の文章です。中学生の皆さんにも、今後の人生や生活の参考になるのではと感じられたので、許可を得て掲載させていただきました。3年生はあと3年で成人年齢の18歳になり、選挙権も与えられます。何年後でもいいので、「勇氣を出して挑戦し努力したことは、その結果がどうであれ、必ず自分の経験値になって、人生を豊かにしていく。」と思えるようになればいいですね。

後悔する勇氣



エーデルワイス

兵庫県立伊丹高等学校

僕はよく後悔をします。夜寝る前に些細な事でも、なぜあんな事をしてしまったのだろう、こうすればよかったのに、などとよく思います。いつだってチャンスは一期一会、一度きりです。その場その場で納得のいく行動ができるなんて思っていない。ですが後悔してしまいます。なぜ人は後悔するのでしょうか？僕は「人は誰もが理想の自分像を持っていて、その自分像に合わない行動をしてしまった時に後悔するのだ」と思います。つまり、後悔することは自分の理想に近づこうとしている証拠だと思っています。今の僕たちにとってそれはしんどいことかもしれませんが、成長には欠かせないことでもあります。しかし「後悔しないように頑張れ」という言葉を聞くことがあります。この言葉は、「自分の理想を叶えるために力を尽くそう。」という意味だと思っています。この言葉のように後悔しないよう努力をすることも、成長には欠かせません。さて、では後悔することは良いことなのでしょう？それとも悪いことなのでしょう？

僕は、後悔はしても良いと思います。でも、後悔を増やさないように何にでも積極的に挑戦していくべきだとも思っています。中学3年生の時、当時の担任の先生が僕に教えてくれました。「積み重ねたことには、一つたりとも無駄なんてない。」と。成人年齢が18歳になった今、僕は大人になろうとしています。今までの約17年間、たくさん後悔をしてきました。

けれど、失敗して何度も後悔してきたことを悔やんではいません。なぜなら、今まで積み重ねてきたどんな些細な出来事でも今の自分につながっていて、これからの自分を形作っていくことを知ったからです。勇氣を出して挑戦し努力したことは、その結果がどうであれ必ず自分の経験値になって、人生を豊かにしていく。こう考えると人生100年時代と言われている今、まだまだ長い道のりがほんの少し楽しみになりました。このことに気づかせてくれた当時の担任の先生にとっても感謝しています。

「迷ったっていいじゃない。人生は誰だって初めてだ。」僕が好きな本の中の言葉です。あのときこうすればよかった、なんて後悔して自己嫌悪になることもあります。そんな時、この言葉を思い出すようにしています。後悔しない人なんて誰一人もいないし、間違えて、失敗して、後悔することは全然悪いことじゃない。この言葉のおかげで僕は日々様々なことに挑戦することができています。もし同じように自己嫌悪になっている人がいたらこの言葉を知って、前向きになって欲しいと思います。

今の僕たちは目の前のことに必死で、なかなか成長出来ずにいるかもしれません。そんな時に広い視野を持って迷うことを恐れず、勇氣をだして一歩ずつ進んでいく意識や姿勢が青少年の健全育成には必要だと思いました。